開催地となる北京の紹介は、現在 WHO で仕事をしておられる中国人研究者がされました。前の週に北米地域がん登録協議会が開催された事もあり、例年以上に米国からの参加者が多かったものの、ヨーロッパやアフリカ、中南米諸国からの参加者は少なく、その反映か、ポスター発表が 50 余と昨年の半分以下と少なく、もの足りなさを感じました。日本からは、13 名が参加し、6 名がポスター発表をしました。毎夜のハワイアンショーを楽しんだり、各国からの参加者による講演を聞いたりと学会を満喫する事ができました。

講演は 10 のセッションから成り、盛りだくさんでした。その中で印象深かった内容についていくつかご紹介したいと思います。

冒頭の、Pacific Islanders and Indigenous Population のセッションでは、太平洋の島々におけるがん登録の実態が紹介されましたが、米国本土との精度格差が大きく、予算措置上の問題である事が報告されました。後で聞いた話では、今後は、適切な予算措置の下、インフラ整備がなされていくという事です。日本政府にも是非見習って欲しいものです。

Human Papilloma Virus, Cervical Cancer and Vaccines のセッションでは、HPV と子宮頚がんの関係がウイルスのタイプ別に詳細に示されました。最も関与が大きいとされる type16, 18 に対するワクチンが今臨床試験段階にあるという話は、子宮頚がん対策が急務となっているアフリカ・アジアなど発展途上国にとっては大きな朗報と思われました。

Migrants and Cancer のセッションでは、移民研究の有用性とそれから得られた知見の豊富さを再認識する事ができました。殊に、ハワイでは日系人を対象とする移民研究が盛んで、数世代を経てもなお原住民と移民のがん罹患率に差が見られるという話しを興味深く聞きました。

筆者は、1998 年のアトランタ大会以来毎年この学会に参加していますが、欧米では国策として充分な資金援助の下にがん登録が行われ、がん登録から得られたデータがその国のがん対策に見事に反映されていることをいつも羨ましく思います。今回、フィンランドの Dr. Sankila の発表の中で、国民は等しく同レベルのがん医療を受ける権利を有するという思想に基づき、各地域ごとの生存率を比較し、地域差があれば問題点を臨床医と相談するという事が示されました。わが国でもがん医療の均てん化が叫ばれていますが、そのためには、医療の充実ばかりでなく、それをどうやって評価するのかという事を真剣に考えなければならないと思います。

学会終了後、参加者ほぼ全員が昼食の席を囲みながら、理事長であるデンマークの Dr. Storm（英語の苦手な私でもつい笑ってしまうほど、話術が巧みな元外科医）によるポスター表彰ショー（これは必見です）を楽しみました。惜しくも 1 位の栄誉はオランダのグループにもっていかれましたが、阪大大学院（保健学専攻）の杉山先生が見事 2 位を獲得されました。おめでとうございます。

（文責　早田みどり）

さて、次回の第 26 回国際がん登録学会は 2004 年 9 月 11 日から 13 日までの 3 日間、中国北京市で開催されます。今回の学会で紹介されたスライドによると、1960 年代には中国全土で 2 つしかなかった地域がん登録ですが、その数は年々増加し、1980 年代には 28、90 年代には 49 を数えました。さらに、昨年には、国レベルでがん登録を支援する National Center for Cancer Registry という組織が誕生しました。さらに発展していくことと思います。来年の会議では「発展途上国における地域がん登録の普及」と「世界におけるがん予防の充実」がテーマです。ぬけるように青いという北京の秋空をみながら、中国 4000 年の歴史に触れてみたいものです。（文責　小山幸次郎）

## 第 12 回総会研究会ならびに実務者研修会・自由集会参加のご案内

**藤田　学**
福井社会保険病院

第 12 回地域がん登録全国協議会　総会・研究会を福井県国際交流会館で 2003 年 9 月 12 日（金）（午前 9 時より）に開催致します。主題としては、がん登録で収集された貴重なデータを日常の診療、疫学的研究、行政にいかに役立てるかを取り上げ「地域がん登録の利用」をテーマとしました。なお前日には、地域がん登録の精度向上のために必要と考えられる院内がん登録の整備に関して、実務者研修会・自由集会を開催致します。多数のご参加をお願い致したく、ご案内申し上げます。

第 12 回総会研究会参加費（会場費等）：3,000 円
実務者研修会・自由集会参加費（資料代）：1,000 円

参加・詳細のお問合せは、下記の第 12 回地域がん登録全国協議会 総会研究会事務局へ

〒911-8511 福井県勝山市長山 2-6-21
福井社会保険病院内
TEL: 0779-88-8166　FAX: 0779-88-8167

## プログラム予定

**9 月 11 日（木）　実務者研修会・自由集会**

会場　福井県国際交流会館　小会議室

15:00–17:30　話題提供

1. 福井県立病院
2. 福井赤十字病院
3. 山形県立がん・生活習慣病センター
4. 大阪府立成人病センター

17:30–19:00　自由討論

**9 月 12 日（金）　総会研究会**

会場　福井県国際交流会館　多目的ホール

9:00–9:15　　挨拶　祝辞

9:15–9:30　　実務者研修会報告

味木 和喜子（大阪府立成人病センター）

9:30–10:30　教育講演 1

「がん診療拠点病院における院内がん登録の整備」

金子　聡（国立がんセンター）

10:30–11:30　教育講演 2

「ヘリコバクターピロリ感染と胃がん」

東　　健（福井医科大学）

11:30–12:00　総会（含 功労者表彰）

12:00–13:00　昼食・ポスター見学

13:00–14:00　特別講演

「生活習慣とがん」

津金 昌一郎（国立がんセンター）

14:30–17:00　シンポジウム

「地域がん登録の利用について」

1. 基調報告
   藤田　学（福井社会保険病院）
2. 地域がん登録を利用した大腸がん検診の評価
   松田 一夫（福井県県民健康センター）
3. 内視鏡検査の精度管理への利用
   細川　治（福井県立病院）
4. 環境と発がんの関係
   ―地理情報解析システムを使って―
   三上 春夫（千葉県がんセンター）
5. 住民検診とがん登録のリンケージ
   岡本 幹三（鳥取大学医学部）
6. がん対策推進のための地域がん登録の活用
   津熊 秀明（大阪成人病センター）
7. 地域がん登録の行政への利用
   ―アンケート調査より―
   冨士 光恵（福井県健康増進課）

ポスター発表：福井国際会館多目的ホール前

## 「5 大陸がん（CI5）Vol. 8」刊行なる

**松田　　徹**
山形県立がん・生活習慣病センター がん対策部

昔々、30 年も前の学生のころ、世界のがんの分布はこんなにも違うんだということを、夢のような気持ちで聞いたことがあるように思います。今、考えますと、そのようなデータを示せるのは CI5 しかなく、もちろん今でも学生の講義に、また世界の様々な地域のがん罹患の多様性を知る指標として、利用されています。CI5 の主な目的は、全世界の異なった地域におけるがん罹患頻度の違いを示すことにあるとされています。

データを見ますと、胃がんの罹患率は日本の本県が 1 番ではないかと思っていたのが、中国にもっと高い地域があるなどということも読み取れます。この CI5 Vol. 8 では CD-ROM が充実し、本が薄くなったことが特徴です。CD-ROM には性・年齢級別の集計されたデータが収録されており、統計パッケージでの利用が可能です。中には“ CI5VIII ”と名づけられた分析用プログラムも含まれています。

このデータブックには日本では Vol. 1 に宮城県の 1959 年からのデータが掲載され、5 年後の Vol. 2 では岡山県が、Vol. 3 からは大阪府が加えられた経緯があり、我が山形県は Vol. 6 から掲載されるに至りました。今回の Vol. 8 には日本からは広島市、宮城県、長崎県、大阪府、佐賀県、山形県の 6 登録からのデータが収載されました。この顔ぶれは Vol. 6 から変わっていません。お隣の韓国は前回は Kangwha の 1 地域だけだったのが、今回は 4 地域に増え、詳しくは存じませんが、中央がん登録プログラム（KCCR）の存在が大きな力になっているのでしょうか。今回は全世界の 235 登録から提出されましたが、49 は採用されず、57 カ国、186 登録からの掲載になりました。アジアからはパキスタン、オーマンが、ヨーロッパからはベルギー、リトアニアが新しく加わりました。

日本は広島市を除いては、DCO が高すぎて、正当性に欠けるとの理由から、条件つきの掲載になりました。広島市は 6%でしたが、その他の府県は 2 桁で、北アメリカ、西ヨーロッパ、オセアニアでは 10%を超えたところは、わずか 4 登録のみでした。これは極めて憂慮すべき事態です。最近、中国でも、北京にがん登録のナショナルセンターが開設されたようで、さらに正確なデータ集積が行なわれようとしています。わが国も法的な整備等々を行い、地域がん登録がもっと深く国民の健康維持に寄与できる日が早く来ることを希望するものです。